

梶峯城を治めた城主たち

梶峯城が舞台となった歴史は、前多久氏・後多久氏の2つの時代に分けられます。前多久氏の時代は建久二年（1191年）～永禄五年（1562年）までの370年間を14代の領主が治めました。後多久氏の時代は元亀元年（1570年）から始まりました。梶峯城は慶長20年（1615年）の一国一城令で廃城となりますが、明治二年（1869年）までの約300年間、11代の領主が多久の地を治めました。



多久太郎宗直肖像画
(延寿寺所蔵)

源頼朝の御家人・前多久氏の祖。
建久年間（1190～1198年）に多久に入部したと言われています。

源頼朝が直属の部下であった、多久太郎宗直を地頭として、多久に入部させました。宗直は梶峯山の山麓に城を構え、そこから14代、約370年間は多久家が治めました。城は山麓から標高200mの山頂へと居を移し、地の利を活かした山城として城作りが進められました。前多久氏・最後の城主・多久藤左衛門宗時は、永禄五（1562年）、当時勢いを増していた龍造寺周家の次男・長信たちに追放されました。ここで前多久氏の時代が終わり、その後、長信がこの地を治めることになり、後多久氏の時代に入ります。

前多久氏の時代

建久二年（1191年）～永禄五年（1562年）（約370年間）

龍造寺長信は梶峯城攻略の戦功として、兄の隆信から多久領を与えられ、領祖となります。そして、長信の嫡男・安順（龍造寺家久）が後多久時代の多久初代領主となります。安順が姓を龍造寺から地名の「多久」に改めたことで以後、領主は多久姓を名乗るようになりました。4代・多久茂文は幼年より儒学を好み、元禄十二年（1699年）に東の原に学問所（後の東原庵舎）を創建。その後、多久聖廟を完成させました。11代・多久茂族の代に大政奉還があり、後多久氏の時代が終わりを告げます。

後多久氏の時代

元亀元年（1570年）～明治二年（1869年）（約300年間）



龍造寺長信肖像画
(多久市立郷土資料館蔵)

龍造寺隆信の実弟長信（天文七年1538年～慶長十八年1613年没）。後多久氏の祖。

梶峯城

かじみねじょう

歴史のロマンが

眠る城山

美しい紅葉に彩られた西溪公園の奥に、山頂が平らな、梶峯山が見えます。多久の中心として、代々の城主がその山麓や山頂に城を築き、人々から「城山」と親しまれてきました。今はなき城跡を尋ね、県外からも訪れる人が絶えない、梶峯城の魅力をご紹介します。